提供年月日:令和4年(2022年)3月25日

所 属 名:滋賀県立美術館

担 当 者 名:福山(広報担当)、木村

連 絡 先:077-543-2111

E - m a i l:museum@pref.shiga.lg.jp

## 滋賀県立美術館 企画展

## 「生誕 150 年 山元春挙」 2022 年 4 月 23 日(土)~6 月 19 日(日)





山元春挙《瑞祥》 1931 (昭和6) 年 足立美術館蔵

- [見どころ] \*力強く壮大な画風と華やかな色使いで京都画壇を魅了した山元春挙の生誕 150 年の節目の年に、初期から晩年までの創作の足跡を辿る当館コレクションと各地の優品、合わせて約80件を展示(会期中に展示替えあり)
  - \*竹内栖鳳とともに<mark>京都画壇を代表する重鎮</mark>であり、多くの作品が<mark>宮内庁御用画</mark>となり、 1917(大正 6)年には帝室技芸員に任命された巨匠の回顧展
  - \*春挙の別邸「蘆花浅水荘」(重要 文化財)で、日本画体験のワーク ショップを開催するほか、記念講 演会、ギャラリートーク、たいけん びじゅつかんのイベントも開催
  - \*山元春挙の伝記マンガを会場で配布



山元春挙伝記マンガ ©河野沙也子

## 1. 山元春挙について

山元春挙は、明治 4 年 11 月 24 日(西暦 1872 年 1 月 4 日)滋賀県膳所町(当時)に生まれました。一度は商家に養子に入ったものの絵の道が諦めきれず、十代の頃、京都の円山四条派の流れをくむ野村文挙に入門します。その後、「明治の応挙」と称された森寛斎に改めて師事。竹内栖鳳とともに、京都画壇の二大勢力として若いうちから頭角を現しました。

春挙の表現の特色は、力強く壮大な画風と華やかな色使いです。写真や科学技術に興味を持ち、油彩画の技法に着目するなどしながら、ダイナミックで華麗な風景画を得意としました。 国内外の博覧会でも活躍し、その多くが宮内庁御用画となったことも注目されます。弟子の育成にも熱心に取り組み、春挙の力量と人柄を慕った弟子達が各地から集まりました。

1917(大正 6)年には帝室技芸員に任命され、名実ともに京都画壇の中心的存在となりますが、1933(昭和 8)年、病に倒れ急逝しました。

春挙の生誕 150 年を記念する本展では、初期から晩年までの創作の足跡を辿る滋賀県立美術館のコレクションと各地の優品、合わせて約 80 件(会期中展示替あり)を展示します。



## 2. 展覧会概要

展覧会名:企画展「生誕 150 年 山元春堂」

会 期:2022年4月23日(土)~6月19日(日) ※会期中展示替えを行います。

休館 日:毎週月曜日

開館時間:9:30~17:00(入館は 16:30 まで)

会 場:滋賀県立美術館 展示室3

観覧料:一般1,200円(1,000円)

高校·大学生 800 円(600 円)

小学生・中学生 600円(450円)

※()内は20名以上の団体料金

※展示室1・2で同時開催している常設展も観覧可

※身体障害者手帳等をお持ちの方は無料

主 催:滋賀県立美術館、京都新聞、生誕 150 年山元春挙展実行委員会

助 成:一般財団法人地域創造

※本展は、滋賀県立美術館、笠岡市立竹喬美術館、富山県水墨美術館を巡回します。

#### ■注意事項

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関連のガイドラインも踏まえ、必要な対策を講じてまいります。それに伴い、 急な御案内の変更などが生じてくる可能性があります。詳細は、当館ホームページ(https://www.shigamuseum.jp/)を 御確認ください。

## 3. 関連イベント ※いずれも事前申込が必要です。

◆展覧会担当者によるギャラリートーク

日 時:2022年4月23日(土)、6月11日(土) 14:00~15:00

◆ワークショップ たいけんびじゅつかん(子ども向け)

開催日:2022年5月5日(木・祝)

会 場:滋賀県立美術館 ワークショップルーム、展示室3

◆記念講演会「滋賀から見る山元春挙」

日 時:2022年5月15日(日) 14:00~15:30

講 師:大原由佳子(文化庁文化財第一課美術工芸品公開促進調査官、元滋賀県立美術館学芸員)

定 員:70名

会 場:滋賀県立美術館 木のホール

◆大人のワークショップ

開催日:2022年5月28日(土)

定 員:15名

会 場:蘆花浅水荘(大津市中庄1丁目)

琵琶湖のほとりに建てられた春挙の別邸「蘆花浅水荘」

(重要文化財)で、日本画体験のワークショップを開催します。



春挙の別邸「蘆花浅水荘」(重要文化財)

※それぞれのイベントは都合により、内容・日時等が変更になる場合があります。 イベントの詳細や最新情報は当館 HP 等で御確認ください。

## 4. 展覧会の構成

### 第一章 画業の始まり

西暦 1872 年 1 月 4 日(明治 4 年 11 月 24 日)、山元春挙は滋賀県膳所町(当時)に生まれました。一度は滋賀県五個荘の商家に養子に入りますが、元々好きだった絵の道への思いが強く、生家の山元家に復籍後、十代で京都の四条派の画家、野村文挙(1854~1911)に師事し「春挙」という号を授かります。この時期の京都画壇は、例えば 1880 年(明治 13)に全国初の公立美術学校である京都府画学校(現在の京都市立芸術大学)が開校するなど、旧来の伝統を守りながらも新しい道を模索している過渡期でした。

文挙の元で絵を学び始めた春挙でしたが、1885年(明治 18)頃、突如文挙は弟子達を引き連れて「明治の応挙」と呼ばれていた円山派の森寛斎(1814~1894)に師事します。その文挙もすぐに活動拠点を東京に移すこととなり、1886年(明治 19)、京都に残った春挙は改めて寛斎の門に入りました。同年、春挙は京都青年絵画協会に出品し一等褒状を受けます。この時、春挙 14歳。いよいよ本格的な画業の始まりです。

本章では、春挙が若くして画壇にデビューした明治 20 年代から 30 年代前半頃の作品を紹介します。この時期は《黄初平叱石図》や《西王母之図》のように、中国の故事や伝承に題材を取った作品が多く見られます。一方で《海浜風物図》や《深山雪霽鹿》のように、やや山水画的な様式をなぞりながらも、後の春挙を思わせるダイナミックな風景表現もすでに確認することが



《西王母之図》1895(明治 28)年頃

## 第二章 画壇の中心へ

十代の頃から、数々の国内外の展覧会や博覧会への出品、受賞を重ねていた春挙ですが、1901 年(明治 34)、第 7 回新古美術品展に出品した《法塵一掃》が一等二席を獲得し、ますますその評価は高まっていきます。新古美術品展は、1895 年(明治 28)設立の京都美術協会が主催する展覧会で、当時の京都の画家たちが多くの力作や意欲作を出品していました。その展覧会で《法塵一掃》と同時に一等一席を獲得したのは、やがて近代京都画壇の双璧として春挙と並び称されることになる、竹内栖鳳(1864~1942)の《獅子》でした。

1904 年(明治 37)には、京都府からアメリカのセントルイス万博の視察を命じられ、渡米する機会を得ます。この時

の経験が活かされたのが、染織品の下絵として作成された《ロッキーの雪》です。ダイナミックかつ写実的にロッキーの山並みの雪景を捉えた表現は、それまでのやや様式 的な風景表現からの新しい展開と言えるでしょう。

そして 1908 年(明治 41)の第 2 回文展(国が主催する公募展)に《雪松図》を、翌年の第 3 回文展に《塩原の奥》を出品しいずれも政府買い上げになるなど、春挙の画業はさらに充実し、画壇での地位も着実なものになっていきます。

大正期に入り、1913 年(大正 2)の第 7 回文展に出品された《春夏秋冬》では、おおよそ明治 40 年代頃までの作品に見られたようなセピア調の落ち着いた色合いから、明るい色調の群青や緑青を用いた鮮やかな画面への変化が確認出来ます。

本章では、春挙の明治 30 年代後半から大正前期までの作品をご紹介します。



《ロッキーの雪》 1905(明治 38)年頃

### 第三章 帝室技芸員として

1917年(大正6)、春挙は帝室技芸員に任命されます。帝室技芸員とは、1890年(明治23)に設けられた「帝室技芸員制度」によって特別に選出された美術工芸家のことです。帝室(皇室)による美術工芸作家の保護と制作の推奨を目的に、技量、人格とも優れた者が任命されるとされ、当時は、美術工芸界最高の名誉と言っても過言ではありませんでした。

この時期の春挙の代表作と言えるのが、昭和天皇の即位の際の大嘗祭のために制作した《悠紀主基地方風俗歌屏風》

でしょう。東西を代表する画家二名による制作を慣習とする本作において、《悠紀地方屏風》を担当した東の画家の川合玉堂(1873~1957)に対して、春挙は西の画家として福岡県を題材にした《主基地方屏風》を担当、実際に九州地方に取材旅行に出かけ、二枚組の屏風(六曲一双)の大作を完成させました。

帝室技芸員となってからの春挙は、大正後期から昭和期にかけて、《山上楽園》、《春の海》、《富士二題》、《しぐれ来る瀞峡》、《瑞祥》など、ますます充実した作品を発表し続けます。特に山岳や水辺を描いた、壮大で華やかな色彩の写実的な風景画は、他の追随を許しませんでした。その表現を根底で支えたのは、十代の頃から持ち続けた写真技術への興味や、実際に山に登り、目にした風景を作品に活かす姿勢であったと言えるでしょう。

名実ともに京都画壇を代表する画家として活躍していた 1933 年(昭和 8)6 月、春挙は急な病に倒れ、翌 7 月に死去しました。あまりにも突然で、早すぎる旅立ちでした。

本章では、春挙が帝室技芸員に任命されてから晩年までの作品をご紹介します。



《しぐれ来る瀞峡》 1931(昭和 6)年

## 5. 主な出品作品

①山元春学《瑞祥》1931(昭和6)年 足立美術館蔵





②山元春挙《ロッキーの雪》1905(明治38)年頃 髙島屋史料館蔵 (展示期間4月23日-5月22日)



④山元春挙《奥山の春》 1933(昭和8)年 足立美術館蔵



③山元春举《山上楽園》 1922(大正 11)年 京都市美術館蔵 (展示期間 4 月 23 日 - 5 月 22 日)



⑤山元春挙《義士の面影》 1931(昭和 6)年 個人蔵



⑥山元春学《武陵桃源図》 1926(大正15)年 滋賀県立美術館蔵

⑦山元春挙《しぐれ来る瀞峡》 1931(昭和6)年 滋賀県立美術館蔵

(展示期間5月24日-6月19日) (展示期間5月24日-6月19日) (展示期間5月24日-6月19日)

⑧山元春学《寒山帰牧》 明治 30 年代前半 京都市美術館蔵







⑨山元春学《春の海》 1928(昭和3)年 愛媛県美術館蔵(展示期間4月23日-5月22日)





⑩山元春学《万年雪図》1915(大正4)年 滋賀県立美術館蔵(展示期間5月24日-6月19日)





①山元春挙伝記マンガ ②河野沙也子



※⑪のみトリミング可



## 6. プレス説明会

- (1)開催日時 令和4年(2022年)4月23日(土) 9:00~受付開始
- (2)会場 滋賀県立美術館(大津市瀬田南大萱町1740-1)
- (3)タイムスケジュール

9:00~ プレス受付開始

9:10~ 9:40 内覧会(展示室3)

9:45~10:15 説明会(木のホール)

10:15~ 自由取材

#### (4)参加申込み

参加を希望される方は、返信表に必要事項を御記入の上、4月22日(金)正午までに、メール またはファックスにてお知らせくださいますようお願いいたします。

お車でお越しの場合は、びわこ文化公園の駐車場(無料)を御利用ください。

### (5)注意事項

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、プレス説明会の内容変更や開催中止となる場合があります。中止の場合は、参加申込みの際にいただいた御連絡先にお知らせいたします。

# プレス説明会参加返信表

申込期限:4/22(金)正午

# 滋賀県立美術館行き

Fax :077-543-2170

Email:museum@pref.shiga.lg.jp

<必要事項>

1) 貴社名 :

2)御芳名 :

※参加される方すべての御芳名を記入してください。

3)参加人数:

4)T E L :

5)E-mail:

6)通信欄 :

## 広報用画像申込書

滋賀県立美術館 教育・コミュニケーション室行き

Fax:077-543-2170 E-mail:info@shigamuseum.jp

展覧会広報用素材として、作品画像等を用意しております。御希望の方は使用条件をお読みいただき、必要事項を御記入のうえ、FAXまたはメールにてお申し込みください。

\*

媒 体 名:

種 別:テレビ ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 その他

 発売·放送予定日:

 御 社 名:

 御担当者名:

 E - mail:

E L:

Т

招待券希望枚数 : 枚 (送付先住所: )

## 御希望の画像に**√**をつけてください。

	①山元春拳《瑞祥》 1931 (昭和 6)年 足立美術館蔵
	②山元春学《ロッキーの雪》 1905(明治 38)年頃 髙島屋史料館蔵
	(展示期間 4 月 23 日−5 月 22 日)
	③山元春学《山上楽園》 1922 (大正 11)年 京都市美術館蔵
Ш	(展示期間 4 月 23 日−5 月 22 日)
	④山元春学《奥山の春》 1933 (昭和8)年 足立美術館蔵
	⑤山元春学《義士の面影》 1931(昭和 6)年 個人蔵
	⑥山元春学《武陵桃源図》 1926 (大正 15)年 滋賀県立美術館蔵
	(展示期間5月 24 日-6 月 19 日)
	⑦山元春学《しぐれ来る瀞峡》 1931(昭和 6)年 滋賀県立美術館蔵
	(展示期間5月 24 日-6 月 19 日)
	⑧山元春学《寒山帰牧》明治 30 年代前半 京都市美術館蔵
	(展示期間5月 24 日-6 月 19 日)
	⑨山元春学《春の海》 1928 (昭和 3)年 愛媛県美術館蔵
	(展示期間 4 月 23 日−5 月 22 日)
	⑩山元春学《万年雪図》 1915 (大正 4)年 滋賀県立美術館蔵
	(展示期間5月 24 日-6 月 19 日)
	⑪山元春挙伝記マンガ ©河野沙也子(「©KAWANO Sayako」でも可)
	⑫山元春挙
***************************************	

#### 「佶田冬件]

- ※①《瑞祥》、⑨《春の海》、⑩《万年雪図》の画像については、一双で掲載してください。
- ※広報用画像の掲載には、各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。
- ※当館からの指定がない限り、トリミングは御遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトに御配慮ください。
- ※情報確認のため、お手数ですが校正原稿を当館へお送りください。原稿確認を行わず誤った情報が掲載された場合、当館では責任を 負いかねます。
- ※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録の DVD、CD などをお送りください。
- ※画像は本展の広報のみの御利用となります。御利用後は必ずデータを破棄していただくようお願いいたします。
- ※読者プレゼント用の招待券の提供を御希望の場合は、本申込書の記載欄に御記入ください。